KITARYU OSHIMA

大島家三代能

能　箙・西行桜・二人乱　｜　狂言　萩大名

日時　2023年1月29日(日)［開演］12:30

場所　喜多流大島能楽堂

鑑賞券

正面指定席	12,000円
中正・脇正面指定席	10,000円
2階自由席	8,000円

11月21日 販売開始

※当日券各500円増

●チケットのお申込み：喜多流大島能楽堂
MAIL：osimano@orange.ocn.ne.jp
TEL&FAX：084-923-2633（10：00～14：00不定休）

●チケットはご入金確認後にお送りします
振込先：ゆうちょ口座番号……01300-3-13844
加入者名……喜多流能の会

●LINE販売もご利用ください。(2023年1月22日20時まで)

●公演中止以外のチケット払戻しはいたしかねます。

チケット WEB申込

チケット WEB販売

お問い合わせ・お申し込み　喜多流大島能楽堂

主催：喜多流大島能楽堂　有限会社 樫木端
後援：福山市 福山文化連盟 福山喜多会

主な出演者紹介

友枝 昭世

能楽師　シテ方喜多流
人間国宝
重要無形文化財保持者(各個認定)
1940年生れ　東京都在住

亀井 忠雄

能楽師　大鼓方葛野流
人間国宝
重要無形文化財保持者(各個認定)
1941年生れ　東京都在住

山本 東次郎

能楽師　狂言方大蔵流
人間国宝
重要無形文化財保持者(各個認定)
1937年生れ　東京都在住

塩津 哲生

能楽師　シテ方喜多流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1945年生れ　東京都在住

香川 靖嗣

能楽師　シテ方喜多流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1944年生れ　東京都在住

大島 政允

能楽師　シテ方喜多流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1942年生れ　広島県在住
能大島家4代目

大島 輝久

能楽師　シテ方喜多流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1976年生れ　東京都在住
能大島家5代目

大島 衣恵

能楽師　シテ方喜多流
1974年生れ　広島県在住

大島 伊織

大島輝久の長男
2008年生れ　東京都在住

出雲 康雅

能楽師　シテ方喜多流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1947年生れ　東京都在住

福王 和幸

能楽師　ワキ方福王流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1973年生れ　東京都在住

福王 知登

能楽師　ワキ方福王流
1981年生れ　兵庫県在住

江崎 欽次朗

能楽師　ワキ方福王流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1973年生れ　兵庫県在住

杉 信太朗

能楽師　笛方森田流
1986年生れ　東京都在住

竹市 学

能楽師　笛方藤田流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1972年生れ　愛知県在住

飯田 清一

能楽師　小鼓方幸流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1960年生れ　東京都在住

久田 舜一郎

能楽師　小鼓方大倉流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1944年生れ　兵庫県在住

亀井 広忠

能楽師　大鼓方葛野流15世宗家
重要無形文化財保持者(総合認定)
1974年生れ　東京都在住

前川 光範

能楽師　太鼓方金春流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1979年生れ　京都府在住

山本 泰太郎

能楽師　狂言方大蔵流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1971年生れ 埼玉県在住

山本 則重

能楽師　狂言方大蔵流
重要無形文化財保持者(総合認定)
1977年生れ 東京都在住

山本 凛太郎

能楽師　狂言方大蔵流
1993年生れ　東京都在住

新型コロナウイルス感染対策のため、下記の事項にご協力をお願いします

・体調不良の方は入場をご遠慮ください
・入場時に手指の洗浄をお願いします
・マスクの着用をお願いします

喜多流大島能楽堂
〒720-0814 福山市光南町2-2-2
TEL&FAX.084-923-2633
osimano@orange.ocn.ne.jp
www.noh-oshima.com

福山駅より徒歩15分
バス停『商工中金前』

大島家三代能

令和五年 一月二十九日(日) 十二時半始

喜多流大島能楽堂

能 箙

シテ（後・梶原景季の霊／前・里人） 大島 伊織

ワキ（僧） 福王 知登

間（生田の里人） 山本凜太郎

大鼓 亀井 広忠　　笛 杉 信太朗

小鼓 飯田 清一

後見 狩野 了一

後見 佐々木多門

地謡 松井 俊介　友枝 真也

佐藤 寛泰　金子敬一郎

塩津 圭介　長島 茂

金子 龍晟　大島 輝久

狂言 萩大名

シテ（大名） 山本東次郎

アド（太郎冠者） 山本凜太郎

アド（庭主） 山本 則重

後見 山本泰太郎

休憩二十分

能 西行桜

シテ（老人） 大島 政允

ワキツレ（花見の人） 福王 知登

ワキ（西行法師） 福王 和幸

ワキツレ（花見の人） 江崎欽次朗

ワキツレ（花見の人） 広谷 和夫

間（能力） 山本泰太郎

後見 塩津 哲生

後見 中村 邦生

地謡 佐々木多門　大村 定

友枝 雄人　香川 靖嗣

狩野 了一　友枝 昭世

内田 成信　出雲 康雅

大鼓 亀井 忠雄　太鼓 前川 光範

小鼓 久田舜一郎　笛 竹市 学

休憩十分

仕舞 白楽天 塩津 哲生

仕舞 三井寺（道行） 香川 靖嗣

仕舞 山姥（キリ） 友枝 昭世

能 二人乱

シテ（猩々） 大島 衣恵

シテ（猩々） 大島 輝久

ワキ（高風） 江崎欽次朗

後見 長田 驍

後見 金子敬一郎

大鼓 亀井 広忠　太鼓 前川 光範

小鼓 飯田 清一　笛 杉 信太朗

地謡 長田 驍　松井 彬

塩津 圭介　中村 邦生

友枝 真也　塩津 哲生

佐藤 寛泰　長島 茂

終了予定 五時頃

曲目解説

箙 えびら

旅の僧が、摂津国生田川のほとりで、見事な梅の木に目を留めます。すると男が現れ「箙の梅」という名の木だと教え、謂れを語ります。

一の谷の合戦で、源氏方の梶原景時、景季親子が平家の陣に攻め込んだ時、景季は箙にこの梅の枝を差して自身の印とし、高名を上げました。そのため、この木を箙の梅と名付けたのです。

源平の大軍が海山に陣を張った、合戦の有様を詳しく物語ると、男は「我は景季の幽霊」と明かして姿を消します。その夜、僧が木陰に仮寝すると、若武者姿の景季の霊が、箙に梅の枝を差して現れます。修羅道の苦しみを見せ、生前の勇ましい戦いぶりを再現すると、弔いを頼んで消え失せます。

勇猛果敢で風雅な若武者の活躍を描く、勝修羅物の曲です。

萩大名 はぎだいみょう

長らく在京の田舎大名が遊山を思い立ち、家来の太郎冠者に相談します。冠者は、ある庭で萩が見ごろだと勧めますが、その庭の主は、客に必ず即興の和歌を作らせるのでした。歌が詠めない大名に、冠者は聞き覚えた萩の和歌を教え、覚えられないので、扇の骨や足の脛にそえたカンニングを使うことにします。

西行桜 さいぎょうざくら

京の西山にある庵で、西行が一人静かに桜を愛でていると、大勢の人々が花見に押しかけます。西行は断り切れずに招き入れますが、俗世の人々に静けさを破られたのが少し心外で「花見にと群れつつ人の来るのみぞあたら桜の科にはありける」と和歌を詠みます。

花見が続くうちに日が暮れて、花の下で夜を明かします。すると、夢に白髪の老人が現れ、先ほどの和歌を詠じて「俗世と感じるのは人の心で、無心の草木に罪科はありません」と伝え、老木の桜の精だと明かします。西行と会えたことを喜び、様々な名所を挙げて桜の美しさを讃えると、春の夜が明けるのを惜しんで舞い、落花だけを残して消えるのでした。

閑寂かつ華麗、余情豊かな名曲です。

二人乱 ににんみだれ

中国の金山の麓に住む、高風という親孝行な男が、夢のお告げを受け、市場で酒を売って繁盛します。客の中に、童子のようで、飲んでも顔色が変わらない風変りな者がいて、名を尋ねると「海中に住む猩々」と名乗って去ります。

秋の月夜、高風が潯陽の江で酒を用意して待っていると、猩々が現れます。海辺で酒を酌み交わして舞い遊び、汲めども尽きぬ酒壺を与えて帰っていきます。

猩々は、全身赤い姿で酒を好む、中国の伝説上の生き物です。

「二人乱」は「猩々」という曲の小書（特殊演出）です。通常は一人のシテが二人になり、乱という特別な舞を、共に舞うのが大きな見どころです。波のような緩急のある囃子に乗り、乱レ足という独特の足遣いで、猩々が水に戯れる様を表現します。上演機会のまれな、華やかでおめでたい演出です。